

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部 3年

参加プログラム: AEON1%club Asia Youth Leaders 2014 派遣先大学:

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

参加した動機

ベトナムやインドネシアの優秀な学生たちとディスカッションをしてみたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
特になし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
財団指定の海外旅行保険に加入。

⑤派遣にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
推薦書及び所属部局の承認(サイン)を入手。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEIC940点程度。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
オリジナリティあふれる名刺を用意する。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
ハノイ市内で大気汚染について座学及び実習のうえ、解決策についてディスカッションをしてプレゼンをする。

②学習・研究面でのアドバイス
事前課題(英語の小冊子)は最低限読み込むこと。

③語学面での苦勞・アドバイス等
ベトナムやインドネシアの学生の多くは米国留学等経験者であり、英語力はかなり高い。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
財団がホテルを用意。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ハノイ市自体は大気汚染や交通マナーがひどく快適とは言えないが、ホテルは非常に快適だった。

③危機管理関係(派遣先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
夜の一人歩きはできない。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
保険料約7千円、お土産代約5千円、以上。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
農場でレクリエーションがあった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
一定の英語力を有するのは大前提だが、生活面のサポートは引率者が多く付いているため万全である。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他派遣を通じての所感
英語でディスカッションをする能力が多少は身に付いたと思う。振り返ると、考えそれ自体の良し悪しは別としてとにかく自分の意見を表明しないと気が済まない学生が多かったため、多様な意見をどうまとめるのかで非常に苦労した。結局、私のチームが一番よくまとまっており、首尾一貫したソリューションを提案できたので、優勝することができた。

②参加後の予定
財団の主催するイベントに呼ばれる機会があるようだ。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
迷ったらとりあえず応募してみるとよい。

その他

①準備段階や派遣期間中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい派遣期間中の写真があれば添付してください。

